

中央アジア乾燥地域における水利用と灌漑管理 —ウズベキスタン・タシュケント農村の事例—

平成 25 年度入学

派遣先国：ウズベキスタン共和国

伊村優里

キーワード：乾燥地域，ポスト社会主義，オアシス，水問題，河川灌漑

研究の背景

ユーラシア大陸中央部に位置する中央アジアは、年間降水量が 500mm にみえない乾燥地域である。ステップ性草原と砂漠、そして砂漠に点在するオアシスに特徴づけられるこの地域において、限られた水資源をいかに利用するかは非常に重要であった。その結果として、草を求めて家畜とともに移動する遊牧と、河川水や地下水を利用したオアシス農業を基盤とした独自の文化が形成されてきた。

しかし、19 世紀後半以降、帝政ロシアによる中央アジア支配が本格的に始まると、この地域の生業は大きく変容した。ソ連による“自然改造計画”によって、定住化・農業化・集団化が推し進められるなか、本研究が対象とするウズベキスタンは、一大綿作地帯へと変貌した。というのも、平坦で広大な未開拓の土地と、高温乾燥という農業における好条件に加え、この地域にはアムダリア、シルダリアという大河川が存在した。1950 年代以降本格的に始まった大規模河川灌漑事業において、多くの水路が新たに建設され、河川水を利用した綿花栽培は同国の主要産業となり、今日も国の経済を支えている。

ところが、1991 年のソ連崩壊と独立によって、同国は社会主義から市場民営化へと舵を切ることになった。これによって、他中央アジア諸国に比べて漸進的移行であったことを差し引いても、近年同国の農業体制は大きく変容している。このような過渡期において、農村では、ソ連時代に形成された農業システムや灌漑設備を維持、利用しながら、一方で地域の生態環境に合わせた多様な農業形態を選択している。

研究目的

本研究は、ウズベキスタン農村地域における灌漑管理に焦点を当てることで、水資源の利用方法が当地域の農業形態にいかなる影響を与え、さらには農村社会の形成にどのように関係しているかを明らかにすることを目的とする。そこで、同国タシケント州オッコルガン地区にある O 村を対称に、同国の灌漑管理を担っている“水管理組合”の実態や、家庭菜園での作物栽培を行う農村世帯と大規模独立自営農の関係を明らかにする調査を行った。



写真1：村落の家の前を流れる水路



写真2：作物を運ぶのに、ロバ車が使われることもある

調査結果

第一に、灌漑管理組織に関する調査から、水管理組合が管理しているのは、フェルメルと呼ばれる独立自営農によって使用される水であることがわかった。対象村落で各世帯が水路から自分の家の畑に引いてくる水は、公の組合ではなく、住民同士の慣習的な決まりごとによって管理されている。水管理組合のもとには、下部組織として“水利用者組合”が存在する。水管理組合が各村落への水の分配を担当するのに対し、実際に個々のフェルメルへ水を配分するのは、この水利用者組合の仕事である。フェルメルは水使用量に応じて水利用者組合に料金を支払い、集められた資金は水利用者組合の組合員の給料や、各種灌漑設備の維持管理費として使用される。ただし、幹線水路の維持管理は政府、および水管理組合の管轄であるため、水利用者組合は、より末端の設備を担当すると考えられる。

第二に、農村世帯とフェルメル自営農に関して、これらの間には雇用者－労働者関係や親族関係に基づいた、密接な関係があることが明らかになった。O 村内には計13のフェルメル農場が存在するが、そのうち9つの農場の実質の経営者は同村落の住人であった。さらに人口3000人強の同村落では、隣人のほとんどがなんらかの親族関係にあたる場合が多い。各世帯、およびフェルメル経営者に対し聞き取りを行ったところ、フェルメルはコムギの収穫を終えた自農地を、労働や収穫物の一部の代わりに人々に貸し与える。人々はその土地で野菜等の商品作物を栽培しているが、そこで得た収入が、その世帯の貴重な現金収入になっている例が少なくなかった。このように、自分の土地やフェルメルから借りた土地を使って、自給用ではなく販売用に作物を栽培する人々を、現地では一般的にデフコン（農民）と呼んでいる。フェルメルとデフコンの関係は、そのまま村落内の人間関係であり、非常に緊密なつながりが見て取れた。

今後に向けて

今後は、これらの調査結果をもとに、灌漑管理と村落における農業形態の関係について考察していく。また、現地で収集した統計データや農業政策に関する文書、河川流域の地図等を利用して、村落での見聞きした事象と、政策や地形といったマクロな事象が、どのように関係しているのかについてもできる限り考察を深めたい。それらをもとに、先行研究の内容をふまえながら、本研究の目的である、水利用と農村社会の形成の関係を明らかにするための有用な視点を発見したい。



写真3：フェルメル綿花農場